

※夜間・翌日早朝に大雨警報（土砂災害）に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3（高齢者等避難）に相当します

警戒レベル	気象庁等の情報	避難情報/住民が取るべき行動
5	大雨特別警報/災害切迫/氾濫発生情報	●緊急安全確保 命を守るために最善の行動
4	土砂災害警戒情報/危険/氾濫危険情報	●避難指示 危険な場所にいる人は全員避難
3	大雨警報※/洪水警報※/警戒/氾濫警戒情報	●高齢者等避難 危険な場所にいる高齢者などは避難
2	大雨注意報/洪水注意報/注意/氾濫注意情報	防災マップなどで避難行動を確認
1		災害への心構えを高める

警戒レベルに合わせて、的確に行動しましょう

災害時に開設する避難所（市指定1次避難所）

市が避難所を開設するときは、緊急速報メールや県防災・防犯情報メールサービス、市ホームページなどでお知らせします。

●地区・避難所名

姫城地区
都城市コミュニティセンター 総合社会福祉センター※ 明道小学校体育館
小松原地区
大王小学校体育館
妻ヶ丘地区
東小学校体育館
祝吉地区
早水公園体育文化センター 祝吉地区公民館※ 祝吉小学校体育館
南九州大学都城キャンパス体育館
五十市地区
五十市地区公民館※
長寿館
今町地区多目的研修館
横市地区
西小学校体育館 勤労身体障害者教養文化体育施設
※
沖水地区
沖水地区公民館※ 沖水中学校体育館

9月1日は防災の日

「防災の日」は、大正12年9月1日に起きた関東大震災の教訓と、この時期に多く発生する台風への注意喚起のため、昭和35年に定められました。

災害時の被害を最小限に抑えるためには、食料などの備蓄や地域住民で助け合う関係性の構築などに加えて、日ごろから災害の知識を学び、避難場所や経路などを把握しておくことが大切です。

「防災の日」を機に、災害に備えるにはどうしたらよいか、もう一度確認してみましょう。

◎問い合わせ 危機管理課 ☎23-2129



災害対策は事前の備えが大事

テレビやスマホで情報収集

テレビやスマートフォンで事前に気象情報や避難情報を入力しましょう。テレビのデータ放送では、雨量レーダーや降水量・河川水位を見ることが出来ます。雨の降り方や河川水位の上昇に注意し、危険を感じたら早めに避難しましょう。

また、NHKの「ニュース・防災アプリ」は、最新ニュースのほか、天気予報や災害情報も見ることが出来ます。



普段使いで備えましょう

乳幼児や高齢者などの家族構成や、ペットの有無に配慮して災害発生後に生活が維持できる1週間分程度（最低3日分程度）の食料や飲料水、その他の生活必需品の備蓄をしておきましょう。

【ローリングストック法】

備蓄専用の保存食なども大切ですが、普段から少し多めに食料品や日用品を買っておき、使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の備蓄を自宅に確保しておきましょう。

【備蓄対象品の例】

ペットボトルの水や、レトルト食品、インスタント食品、菓子、乾麺、缶詰、乾物、漬物、カセットコンロのボンベ、ウェットティッシュ、トイレトペーパー、食品用ラップ、ビニール袋、乾電池、使い捨てカイロ

非常時持ち出し品の準備ができていますか

大規模災害発生時は、自宅の倒壊や焼失、浸水などが原因で、在宅避難ができない場合もあります。そのような事態に備えて、日ごろから非常時持ち出し品を準備・点検しておきましょう。

【持ち出し品の一例】

- 新型コロナウイルス感染症対策 マスク、消毒液
- 食料品など 食料品、缶詰、使い捨ての紙皿や紙コップ、割り箸
- 貴重品 現金、通帳、印鑑、保険証、運転免許証、マイナンバーカード
- 救急医療品 常備薬、傷薬、絆創膏、鎮痛剤
- 赤ちゃんのいる世帯 粉ミルク、離乳食、紙おむつ
- その他 衣類、生理用品、レジャーマット、タオル、スリッパ、雨具、ライター、タオルケット、モバイルバッテリー

災害発生時の連絡先

緊急時の消防・救急 ☎119

緊急時の警察 ☎110

災害用伝言ダイヤル ☎171

避難所

危機管理課 ☎23-2129

避難行動要支援者

福祉課 ☎23-2980

水道の断水

上下水道局お客様センター ☎23-4510

道路の被害、側溝・排水路などの氾濫

維持管理課 ☎23-2752

田畑の土砂崩れ

農村整備課 ☎23-2981

浸水家屋の消毒

環境政策課 ☎23-2130

その他(災害全般、災害救助資金融資制度、り災証明など)

危機管理課 ☎23-2129

停電など

(株)九州電力送配電都城営業所 ☎0120-9861705

※九州電力携帯メールサービスも利用ください